

私立大学情報教育協会 平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会 ～応用コース～

討議内容	第1分科会 第3グループ	作成日	2010年11月11日
開催日時 開催場所	2010年11月10日(水) 16:00～11月12日(金)12:00 浜名湖ロイヤルホテル 2階スワン	作成者	アートスタッフ:乾 登志男
出席者 全8名	【第1分科会 第3グループ】 <敬称略・順不同> 札幌学院大学 三川 豊章 (議長) 福岡女学院大学 木下 智史 (書記) 大阪経済法科大学 岡田 学 大阪歯科大学 東尾 麻由 聖徳大学 稲葉 秀光 東海大学 関本 恵 (発表) 日立製作所 河南 亮輔 (発表) アートスタッフ 乾 登志男 (書記)		

※第1分科会名:「学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用」

1. はじめに

(1) 導入状況などの確認

- ・自己紹介を兼ねて、学習ポートフォリオや学生カルテシステムにおける導入状況および問題点/懸念事項など参加者相互のディスカッションを行った。その結果、各校とも学習ポートフォリオについては導入実績がなく、学生カルテシステムについては、2大学のみ導入実績であった。

(2) テーマの決定

- ・「卒業後のキャリア形成に役立つ、理想のシステムを形成する」
→第3グループとしては、学習ポートフォリオや学生カルテシステムの定義を確認し、ICTの導入が目的ではなく手段であることを確認した上で、現状の問題を整理・分析・共有し、学士力向上と社会人基礎力向上のために、学生の質を保証する仕組み作りが必要であると問題の本質を確認した後、討議のテーマを決定した。

2. ケーススタディ

(1) モデル大学の選定

- ・「F岡」学院大学
→大学:2学部5学科、短大:1学科、大学と短大の学生総数:約2,400名、教員数:約60名、職員数:約40名
具体的なモデルケースを選定することにより、参加者全員が共通の認識でディスカッションをしやすいような環境づくりを考慮した。
また、「F岡」学院大学にて、現在導入を検討しているため、課題を解決する理想的な学習ポートフォリオおよび学生カルテシステムの機能と導入時の課題を検討することにより、本コース終了後の成果が、実践においての具体的な取り組みに結びやすくなることにも考慮した。

(2) 学生側の課題

- ・「学生自身の能力および学生がやりたいことの理解が不足していた」
→学生自身がどんな会社でどんな仕事をしたいのかを事前に考える必要があるが、大学3年次になって初めてなんとなく考え始めている学生が散見された。
- ・「学生自身が社会の情勢や企業の理解が不足していた」
→昨今の景気低迷による、現実社会と自分の考えにGAPが生じており、社会の理解不足や就職に対する意識が低い学生が散見された。

(3) 大学側の課題

- ・「大学1年次～4年次におけるプログラム運営基盤が異なっており、学内で連動していなかった」
→経年で確認するとプログラム運営がバラバラで、学生自身が大学1年次でやるべきことや2年次でやるべきことなど全体のイメージも含め再構築が必要であった。
- ・「大学の初年次教育からキャリア支援プログラムが存在していなかった」
→大学3年次から予定しているキャリア支援プログラム(マナー指導、面接指導、エントリーシートの書き方)などを1年次から早期に組み込む必要があった。
- ・「大学の情報共有の不足が発生していた」
→教職協働のキャリア支援ができていないことや学生個々の卒業後の目標などが事前に教職員が把握できていないことなどが散見された。

3. ICTの利活用

(1) ICT 導入による解決方法

- ・学習ポートフォリオ
→目標設定/目的と評価の振り返り/自己分析テスト/アンケート/成績や GPA の参照/時事ニュースのレポート提出などが該当する。
- ・学生カルテシステム
→面談の記録/指導の際のサポートなどが該当する。

(2) 導入と運用の課題

- ・「関連部署が多く主体となる部署を明確にする必要がある」
→各課から上席 2 名程を選出したワーキンググループにより検討した上で、学長の承認をもらい学長主導のトップダウンで導入する必要がある。

(3) セキュリティの課題

- ・「個人情報適切に扱う必要がある」
→個人情報がたくさん存在するため、個人情報取り扱いに関するガイドラインを事前に制定して、教職員向けに講習会などを開催して内容を理解し、適切に取り扱う必要がある。
→接続は通信の暗号化をして、学内のみ (IP 制限) で ID とパスワードにより、ログインを制限する必要がある。
→情報の公開はアクセス権限を設けて、ユーザー単位で公開と非公開の箇所を設定する必要がある。

(4) 利用率の課題

- ・「利用率向上のための工夫が必要である」
→教職協働により、目的を共有した上で双方がお互いの役割を理解して、能力や専門性の向上に努めることを含めて、学生の指導を行う必要がある。
→教員評価や FD の一環として、例えばポイントなど評価におけるインセンティブを与えることにより、活用を促す必要がある。
→初年次教育から長期目標や短期目標などを学生に登録したり、講義では資料配布や資料提出などをさせたりすることで、定期的に振り返りや学生による気付きを促し、継続利用させる必要がある。
→SNS を利用することで、学生と教員間や学生と学生間で、他者評価 (「イネ!」ボタン) を利用することで、利用を促す必要がある。
→学生におけるポイント制のお楽しみ機能として、ランキング表示やアバターの成長機能など (例えば最初は種まき～最後は花が咲くイメージ) を追加して、利用を促す必要がある。

4. 総括

(1) まとめ

- ・学習ポートフォリオや学生カルテシステムにおける定義の再確認や具体的な大学を想定してのケーススタディで検討したため、より身近に現状の問題を整理・分析・共有することができた。
ICT を活用した教育改善とその期待される効果や運用課題までを具体的に検討することができた。ICT を活用したデジタル部分と教職協働や学生との対面コミュニケーションなどによるアナログ部分との両方の融合により、教育支援マネジメント体制を確立することができた。

(2) 最後に

- ・学習ポートフォリオにのせるコンテンツ (LMS) として、リメディアル教育～キャリアデザインまでを経年でかつデータをタンキングすることで、分析データの抽出/可視化/アウトプットなどで、双方向の教育支援を推進し、学士力向上と社会人基礎力向上および学生の質保証ができる、新たなコンテンツの仕組み作りも重要である。